

VIDEO JOURNAL



6

2014

June

Vol.1289

●月刊ビデオジャーナル ●昭和43年3月1日創刊
●【発行所】株式会社伸樹社 ●【発行人】立石伸雄
●〒160-0006 東京都新宿区舟町4-4-101
●TEL.03-3353-9508 ●FAX.03-3357-4846
●年間購読料10,800円(税込)・一部980円(税込)
●http://www.videojournal.co.jp ●news@videojournal.co.jp

axle Video 社、メディア・ソリューションズを パートナーに日本市場に向けて本格参入

今、プロ映像市場で注目されているソリューションの一つが映像素材、メタデータなどを統合管理するシステムだ。4K、8Kなど益々高解像度化し容量も増えていく一方、昔は単一フォーマットで制作・管理していたものも今や多様化しマルチフォーマットで対応できることが当然のようにになっている。

そのソリューションに応えられるシステムは各メーカーからは既に提案されているが、殆どが大規模なもので、インシャルコスト、ランニングコストともにどれも負担のかかるものばかり。もっと負担が少なく導入しやすい管理システムが求められていた。そうした市場の要望にマッチした製品を送り出し、設立後わずか2年で急成長を遂げているのが axle Video 社なのである。北米、欧州などで既に高い評価を得て、アジア圏、特に日本に向けて、メディア・ソリューションズ(以下MSI)というパートナーを得て、本格参入することになった。そこで本紙では、その axle Video 社 CEO の Sam Bogoch (サム・ボガシュ)氏と日本担当 Joel Ingulsrud (ジョエル・イングルスルド)氏、株式会社メディア・ソリューションズ専務取締役 島津昭彦氏に独占インタビューを行った(Sam Bogoch氏はスカイプ回線を使っでの取材)。(2面へ)



Joel Ingulsrud 氏と島津昭彦氏



ー設立後2年という若い会社で、特に日本ではまだ知らない人も多いと思います。簡単に会社設立までの経緯を教えてくださいませんか？

Sam Bogoch 氏：以前より私は、メディアアセットマネジメントの市場に特化した導入しやすいコストで使いやすい、システム・サービスを提供したいという思いを持っていました。Avid社に入社し、「Interplay」ソリューションのプロダクトマネージャーを4年間、最後の1年間は特に「Interplay Mam」※（制作工程におけるリアルタイム・メディア管理を行うInterplay Productionとは異なり、Interplay MAMはメディア・アセットを総合的に管理するソリューション）を担当しておりましたが、益々その思いは強くなり、2012年夏にAvid社を退社し、「axle Video」社を立ち上げたというわけです。

ー企業理念はどのようなものでしょうか？

Sam Bogoch 氏：今までに無かったユニークなシステム、ソフトウェア、サービスを提供していく、ということでしょうか。MAM(メディアアセットマネジメント)というのは、産業界の多くの市場の方々はその詳細を把握していなかったり、実際に利用したことが無かったりという状況の中で、axleは非常にわかりやすく導入もしやすいというコンセプトでの製品を目指しています。今までの他社のMAMソリューションのベンダーとの大きな相違点は、大規模で、イニシャルコストが高いものではなく、(axle Videoの製品

はWebブラウザベースでインターネット上でリモートで使うソフトでもある) Webのスタートアップのような、インフォーマルで軽く素早く動くものですので、弊社の製品は、これまでMAMの導入で大きな障壁となっていたイニシャルコストが比較にならないほどかからないものなのです。

ー御社の主力製品を教えてください。

Sam Bogoch 氏：最も今売れている商品は「axle Gear」。これは1Uのラックマウントにトランスコードの機能が追加されたアプライアンスで、どんなNASやSANのネットワーク環境でも直接つなげることによって、コンテンツに対してWebブラウザベースでの軽く容易な操作感覚を与えることが出来るものです。また「axle2014」という商品も好評です。これはソフトウェアのみの商品なのですが、MacMiniにインストールされて販売される例が多いです。

また、ハイエンド用の商品としては「axle Gear Pro」、「axle Gear for Adobe Anywhere」があります。前者は「axle Gear」にAvid対応を、また後者は同様にAdobe対応を追加したものです。

ー現在の主な販売マーケットを教えてください。

Sam Bogoch 氏：おおよそですが、放送局（送出、アーカイブ部門など）、ポストプロダクション、大学（講義の動画配信ソリューション）、企業（社内研修用ソリューション）、その他（宗教やニューヨークヤンキースなどプロ

スポーツチームのトレーニング動画ソリューション）の5つのマーケットに分類されます。

ー急速に売り上げも伸ばしているそうですね？

Sam Bogoch 氏：はい、急速に成長しており営業的には満足しております。現在では約100社以上と取引があります。弊社立ち上げ当時は小規模のワークグループなどで導入して頂くことが多かったのですが、徐々に大規模な放送局や企業などでも採用頂くことも増えてきました。この好業績の要因は、二つ目のメジャーリリースを出したことで、それまで様子見していた方々も安心して頂いたことと、ハイエンド商品「axle Gear Pro」、「axle Gear for Adobe Anywhere」を出したことで、既にAvidやAdobeベースの大企業が安心して採用できたことと分析しています。これは業界メディアの記事、広告や業界イベントへの出版などを発端に効果的に私たちの商品コンセプトそのものが非常に強くアピールできたことが良かったと思っていますし、今後も継続していきたいと考えています。もちろんこれらも多く予算をかけるのではなく、選択と集中をして小規模でも効果があるように考えていきます。

ーこの度日本のMAM市場に本格参入されることになりましたね。

Joel Ingulsrud 氏：これまではアジアでの拠点がありませんでしたので、殆どが北米と欧州でした。北米が60%、欧州40%ですね。現在では日

本を始め、アジア各国で興味を示されています。アジア全体で20%を期待しています。その中の半分10%は日本だと思っています。日本ではファイルフォーマットでのシステム環境が急速に発展しており、axle Videoの商品の需要も加速する環境が整っていると思っています。

Sam Bogoch 氏：メディア・ソリューションズとのパートナーシップについては、非常に期待しています。メディア・ソリューションズの島津専務とは私がAvid社在籍時代からのお付き合いで、その人となりも深く信頼しています。メディア・ソリューションズもaxle Video社の製品、戦略に対して深い理解と応援をして頂いており、パートナーとして最高だと思っています。

ーaxle Video社商品の取り扱うことになった目的や抱負を最後にお願いします。

島津昭彦氏：メディアソリューションズはこれまで、Avid編集機を中心とした編集システムの販売、キitting、サポート等をメインに展開してきましたが、ファイル化がいつそう進む中で、編集システムの多様化やファイルベースでのソリューションの需要が急速に増えてきました。ファイルベース化の条件としてもっとも重要なのは、それを管理・制御するシステムです。ところがこれまでのファイル管理システムは、各編集システム固有のものや、初期投資が大きい大規模なものが中心であり、ファイル化が進む中でネックになっていました。そんな中でaxle Video社のコンセプトはオープンで、既設の環境に左右されず、非常にシンプルに導入できるもので、弊社の求めるコンセプトと合致したんです。ファイル管理に求められる機能の中で、お客様からは、具体的にはインターネット経由での素材の簡単なプレビューや、アーカイブ、検索などの運用のご要望が多いんです。axle Video社とこれまでの弊社の編集システムとのノウハウをうまくインテグレーションして、これらの需要にこたえていきたいと思っています。

今後メディア・ソリューションズ社では日本国内で開催されるイベントなどへの参加や内覧会なども計画中とのこと。詳細がわかり次第本紙でもお伝えしていきたい。